

2025 年 6 月 6 日
シブサワ・アンド・カンパニー株式会 代表取締役
渋谷 健

第 35 回「新しい資本主義実現会議」コメント

「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」の 2025 年改訂版案の包括的な取りまとめに感謝を示す。新しい資本主義とは、「取り残されている」課題の解決が成長につながるということが根本的な定義であると理解している。終戦 80 年から現在の復興を鑑み、これからの 80 年という新しい時代を踏まえると、最も「取り残されている」国民層は子供たちという若年層およびこれから産まれてくる未来世代の日本人ではないか。

◎ これからの 80 年の平和でサステナブルな世の中を支える財源を創出することこそが、日本の新しい時代の「資産運用立国」である。その観点から「NISA の活用を含め、次世代の資産形成の推進のための具体的な方策を検討する」と明記されたことは重要だ。

◎ 日本がグローバル市場で稼ぐ力を強化するには世界の人的資本の基盤を構築することも必須だ。そういう意味でインパクト投資などを通じてグローバルヘルス分野の促進の優先度の意を高めるべき。また対外経済連携である「自由で開かれたインド太平洋」の最西端であるアフリカとの投資エコシステムの促進は、今年の TICAD9 のみならず、日本の未来世代への投資だ。民間投資の「触媒」として JICA 法改正による新たな制度等を多いに活用すべき。

◎ 日本企業の稼ぐ力を更に向上させるための投資の検証・説明責任の明確化を含むコーポレートガバナンス・コードの見直しを明記されたことは重要。

◎ アセットオーナーの資産運用の高度化については、国立大学法人、公立大学法人及び学校法人のみならず、公益財団法人・一般財団法人の資産運用・資産管理に係る欧米などの実態把握も進め、指針を設置すべき。